No.

ナガカメムシ科（長椿象科）

Lygaeidae

本科に属する甘蔗害蟲はカンシヨコバネナガカメムシ、ヒメカンシヨコバネナガカメムシ、コマダラナガカメムシの3種であるがカンシヨコバネナガカメムシ以外は重要でない。

173　カンシヨコバネナガカメムシ

Ischnodemus saccharivorus Okajima

異名：コバネカメムシ，カンシヨコバネカメムシ)

成蟲　體長6～9mm。全體黒色で背面から見た形は略長方形をなし、前後兩端が圓く胸部及腹部の兩側線は殆んど平行し體の表面に無數の點刻と淡褐色の短毛とを密布して居る。頭部は稜形、口部及觸角は前方へ複眼は兩側方へ突出し後頭部に2個の單眼を有す。複眼は紅色觸角は4節よりなり第1節は太く楕圓形で淡褐色第2節以下は暗褐色末節は最長且紡錘形をして居る。前胸の前縁は圓く後縁は略直線をなし、中胸は前胸と等長で横に長い長方形を呈し稜状部は正三角形である。腹部は體長の約$\frac{3}{5}$を占め6節よりなり背面は平たく兩側縁部が稍隆起して居る。尾端は雌に於ては鈍圓をなし腹面に縱裂あり、その中に産卵管を藏して居るが雄に於ては尖小にして球形の附屬物を有する。翅は淡黄灰色で甚だ短く腹部の後半を裸出して居り、此の兩翅を背上に平置した場合にはX字形の黒紋を表す。然し翅の長短は季節によつて差異あり、沖繩に於ては4月頃短翅形が多く9月頃長翅

形が多いと報告されて居る。肢は淡黒褐色、腿節は太く歩行は自由である。

卵　長楕圓形で長さ1.5mm産下當時は白色であるが漸次黄褐色となる。

幼蟲　形は大体成蟲に似て居るが翅はまだ発達して居らず、頭部及胸部は黒褐色で後胸の中央に白紋がある。腹部は黄褐色、第2節と第3節に跨り両側に各1個の大きな白紋を有し、又第4節の中央に赤褐色の圓紋あり、その直後は黒紋となって居る。腹部末端節は黒褐色、肢は暗褐色である。

經過習性　年3回の発生をなし、成蟲の最も多く現れるのは6，8〜9，11〜1月頃である。従って卵は4，7，9月頃、幼蟲は4〜5，7〜8，9〜10月頃最も多い。卵期間は普通13〜20日間であるが1月頃産下されたものは稀に90日を要するものがある。幼蟲期間は大凡30〜58日間でその間に5回の脱皮をなして成蟲となる。卵は葉鞘の内面縁部に沿ふて一列に規則正しく並べられ、1雌の産卵数は150粒内外、1卵塊の卵粒数は12〜30粒である。幼蟲及成蟲は常に甘蔗の心葉部並に葉鞘の内側等へ潜入し、葉液を吸收するもので被害痕は後に褐色の斑

紋となって残るのが特徴である。

本種の成蟲は飛翔力殆んどなく、專ら歩行によって移動するものであるが性質は敏捷でない。本島の中北部及沖縄大島等に於て時々大発生をなし甘蔗の重大害蟲である。発生の旺盛な時には1株に60足以上発見することが出来る。

加害植物　甘蔗、スヽキ。

分布　台湾、沖縄、大島。

天敵　卵に寄生する卵蜂科の1種が居る(種名未詳)。寄生率は相當に高い。

駆除預防法

1.　本種は主として蔗苗によって傳播されるものであるから発生のひどい蔗園からは採苗せぬこと。

2.　收穫後の残渣を燒却すること。

3.　幼甘蔗に発生した場合には硫酸ニコチン(40%)の1500倍液を噴霧器で葉の上から撒布し又葉鞘内に注入せしむること。但しこの際液1斗につき粉石鹼20匁を加用すること。

4.　1回の駆除でこれを完全に絶滅させることは困難であるから何回も繰返して行ふこと。

シユモクカメムシ科（橦木椿象科）

Colobathristidae

本科に属する種類の中、濠洲の Phaenacantha australica KIRKALDY，爪哇の Phaenacantha (= Colobathristes) saccharicida KARSCH 等は有名であるが臺灣に産する Phaenacantha marcida HORVATH に関しては未だ殆んど知られて居ない。

172　シュモクカメムシ

Phaenacantha marcida Horvath

成蟲　體長8mm内外。體肢共に細長く全體黄褐色（飴色）を呈し、頭部は甚だ短く且廣幅く中央に不鮮明な2本の紫褐色の縦線を具へ基部に近く相接近して2個の單眼あり紅色を呈す。複眼はその兩端に位し著しく突出して黒褐色を呈して居る。觸角は甚だ細長く4節よりなり第1節は太く短く、第2節はこれより約$\frac{2}{3}$長く、第3節は第2節と略等長で先端黒く、第4節はこれよりも稍長い程度である。前胸背の前縁は襟状に縁取られ、中央より少しく前方に淺い横溝を有しそれより前方は暗色を呈す。稜状部は小さくその中央に斜後方に向へる棘状突起あり。前翅は細長く淡黄褐色を呈し、翅脈は褐色、膜質部は廣く且透明である。胸部の下面及側面は暗色で上面と同様粗大な點刻を密布し腹部の下面は黄褐色、側面は褐色。肢は淡黄褐色、雄は雌よりも稍小形である。

卵　長楕圓形、稍々扁平、長さ2mm内外。前端稍太く卵帽部に9～11個の突起あり。産下當時は琥珀色であるが次第に暗褐色と

なる。

幼蟲　孵化當時の幼蟲は體長2mm内外。淡黄緑色、両側に不規則な條線1對あり。2條の背線は腹部の中程で合一し稍不規則な横帯を形成して暗色の尾部に達し後部にも條線がある。觸角は體の約2倍の長さを有し、第1節は赤色、各節の末端は白色である。老熟せる幼蟲第5齢は體長8mm内外。後頭部及胸下面は暗褐色、腹部は朱赤色又は黄白色。翅は暗色但し中央部淡く、稜狀部は暗色で突起は白色である。

經過習性　本種は本島の中北部及花蓮港地方に多く南部には稀である。一般に葉裏又は葉鞘内面に居て汁液を吸收するものであるが性頗る敏活、近づけば直ちに心葉内或は土塊間に隱れ、又能く飛翔し群棲することが多い。交尾は葉間葉裏等で行はれ、卵は葉の裏面葉鞘の内面又は土塊の間隙等に1粒宛産下せらる。卵期間は1～2週間、幼蟲期間は4～5週間、成蟲の壽命は相當に長い。

加害植物　甘蔗、ススキ。

分布　台灣（花蓮港、臺中、大林、新營、新化、屏東等）

驅除豫防法

1. 朝露の乾かぬ中に捕蟲網を以て捕殺すること。

2. 附近の草原へ追ひ込み周圍より點火して燒殺すること。

3. 收穫後の殘渣を燒却すること。

一、ホシカメムシ科（星椿象科）

Pyrrhocoridae

長椿象科に似て居るが其の異なる點は單眼を缺くこと、前翅の膜質部の基部に2個の肥室があつて之より分岐して居る多數の翅脈を後方に送ること、觸角の第1節は棍棒状をなすこと、前翅腿節に齒状突起を有ぬること等である。赤色又は黒色で赤色の斑紋を有する美麗な昆蟲で熱帶地方に多い。

181 アカホシカメムシ

Dysdercus megalopygus Breddin

異名: *D. cingulatus* FABRICIUS

成蟲 朱色、頭、口吻、前胸背の前縁近くの横盤と側縁、及び體下は朱紅色、複眼は黒色。觸角は黒色にして4節第1節の基部は朱紅色、第4節は暗褐色。前胸背の前縁は白色。小楯板、半翅鞘の中央の圓紋、及び膜質部は黒色。前胸下の前縁、各胸節下及腹節の後縁(尾節を除く)は白色。肢は黒褐色、基節及腿節の基半部は朱赤色、前肢腿節の末端近くに2個の小刺がある。體長13～15mm。

卵 卵形で黄色、孵化前暗黄色に變ず。長徑1.3mm内外。

幼蟲(若蟲) 孵化當時のものは朱紅色、第2齢にては眼、觸角及肢は褐色、第3齢以後には前胸の前縁部白色となり翅芽の末端に2個の大なる黒色圓紋を生じ腹部第2節及第3節に各2個の黒紋を生ずるに至り腹面の接合部は白色となる。5回の脱皮を經て成蟲となる。

經過習性 棉の大害蟲であって、年6回の世代を累ね、幼蟲にて越年し2月上中旬

農業試驗所 1895 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

に成蟲となる。卵は土中に30～40粒より100粒内外を1箇所に不規則に産み其の表面を雌自體にて覆土す。卵期間は6～13日、幼蟲(若蟲)期間は30～40日、但し越冬幼蟲期間は100日内外である。孵化後2齢までは集合して居るが其れ以後になると離散する。

成蟲幼蟲共に好んで棉の蒴果に襲来し、口吻を挿入して汁液を吸收する、故に蒴果は完全なる開絮が出来ず、若し開絮しても纖維は極めて劣悪のものとなる。本種が棉に襲来する時期は棉の開花期前後であって、其れ以前には殆ど棉園には発見出来ないと云ふても良い。

加害植物　棉、梧桐、芙蓉、黄蜀葵、オクラ、佛桑花、ボンテンクワ、トロロアフヒモドキ。甘蔗に對しては殆んど害をなさず。

分布　台湾、沖縄、支那、印度、其他。

天敵　次の2種はアカホシカメムシの幼蟲を捕獲し其の養液を吸收して死に至らしめる。

ベニホシカメムシ *Antilochus coqueberti* FABRICIUS (*Lygaeus formosanus* SHIRAKI)

コマダラナガカメ *Spilostethus hospes* FABRICIUS

(コアカマダラカメムシ) ―

驅除豫防法

1. デリス剤又は除蟲菊剤を撒布すること。

2. カポック(斑芝棉)の蒴果又は實綿を被害園の地上に點々と放置し之に集まれる幼蟲を捕殺すること。

甘蔗に更に次の1種が発見せられてゐる。

182 ヒメアカホシカメムシ

Dysdercus poecilus Werrich

No.

メクラカメムシ(盲椿象科)

Miridae (Capsidae)

小形種であつて、單眼を缺き、口吻及觸角は4節よりなる。半翅鞘には楔狀部はあるが、膜質部を缺いて居る。肢の跗節は3節である。産卵管は劍狀をなし、尾端に收めらる。卵は植物の組織内に産下される。

本科の昆虫の体形は極めて多様で、又種類も非常に多い。大部分のものは植物の養分を吸收して生活し、作物の害虫として多數の有名な種類が含まれて居る。

クロトビメクラガメ

Halticus tibialis Reuter.

成虫　体は稍卵形で、平滑なる點刻を有し、黒色光澤がある。頭は幅廣い。觸角は細長で、体長よりも遙に長く、淡黄色、第3節の後半及第4節(基部を除く)は暗褐色。第1節は短太、第2節以下は細長く就中第2節は最も長い。楯狀部は三角形で、短い。前翅の革質部には平滑なる點刻があって末端近くの外縁には6—7本の毛を生じ、膜質部は大きく暗褐色半透明で翅脈を缺く。肢は良く發達し、後肢腿節は太く跳躍に適し脛節は細長、各肢は黒色、前中兩肢の腿節の末端近く、後脛節の末端、各脛節及各跗節は淡黄色、各跗節の末端及爪は黒色を呈する。体長2mm.内外。

卵　楕円形で、一端は少しく上方に彎曲し、頂端の周縁には小歯を羅列する。長さ0.65mm.内外。

幼虫　淡黄色で粗毛を有し、黒色の斑點を散布する。

經過習性　年數回の世代を累ね、成虫は周年生存して加害する。卵は葉の表面又は裏面の組織内に半ば挿入して1箇宛産下さ

れ、其の表面は暗褐色又は黒褐色の汚物によつて被はれて居る。成虫、幼虫共に葉茎より養分を吸収して、大害を與へる恐る可き大害虫である。本虫は毎年大発生をなし大害をなすのではなく、間歇的に異常大発生をなし、大害を與ふるものである。4～7月頃の乾燥は本虫異常大発生の誘因となる様である。大正5年及昭和8年に澎湖廳に於て甘藷並に落花生畑に異常大発生を見甚大なる損害を與へた。

加害植物　甘藷、落花生、薄荷、西瓜、胡瓜、絲瓜、南瓜、越瓜(甜瓜)、メロン、大根、甘藍、白菜、紅菜、大豆、フジマメ(肉豆)、茄子、菊、刺桐、榕樹、荳蔻。

分布　台湾、澎湖島、紅頭嶼、火燒島。セイロン、亜弗利加等の熱帯地方に廣く分布する。

駆除豫防法　除虫菊石鹸合剤、デリス剤、石鹸加用硫酸ニコチン1000倍液等を撒布すること。

No.

175 チャノオホメクラカメ

Hy

成蟲 體は緑色と淡褐色との二型がある。緑色のものは乾燥標本にすると淡褐色に變ずる。頭は三角形に突出し、前胸背の後方は著しく廣く其の側角は刺状に突出する。單眼を缺き、複眼は黒色。觸角は4節、基部の2節は太く、末端の2節は短く第2節の⅔の長さである、第1節は體と同色、第2節は赤褐色、第3節の基部の⅔は淡緑色或は淡黄色で他は黒色、頭には3條、前胸背には5條の縦線がある、それ等の中、頭のものは暗褐色、前胸背のものは前端が暗褐、其の他は白色又は暗褐色を呈し、且つ中央線を除いた他は不明瞭なるものが多い。前胸背の後縁近くに黒色帯がある。小楯板には3條の暗褐色の縦線があるが側方のものに不明瞭なるものがある。前翅は體より長く、體と同色で透明、翅脈は黒色。肢は體と同色、後脛節は赤褐色を呈す。體長8mm内外。

幼蟲 殆んど成蟲と同色、觸角及肢は多毛である。

經過習性 年何回の世代か不明なるも或

蟲は年中生存する。幼蟲・成蟲共に茶の新葉の表裏にあって養分を吸收する、其の害は輕少である。幼蟲成蟲共に活潑で成蟲は僅かの動搖でも直ちに逃飛する。

加害植物．茶樹。

分布．台湾、印度、セイロン、ジヤバ、フヰリッピン、クヰンスランド等に廣く分布する。

甘蔗の害蟲として知られてゐるものは次の2種である。

176　カンシヨメクラガメ

Lygus sacchari MATSUMURA

177　イネノメクラガメ

Lygus oryzae MATSUMURA

ツノメクラガメ類

ツノメクラガメはHelopeltis又はTea-mosquito或はTea-blightの名を以つて知られ熱帯アジヤ及熱帯アフリカに於て茶樹、規那、カカオ等の重大害蟲として取扱はれて居る。台湾には3種産するも次に記述するチヤノツノメクラガメは茶樹に、キナノツノメクラガメは規那の葉に大害を與へる。ツノメクラガメは胸背に1本の桿状突起を有することと及其の被害痕が赤褐色の斑點となることが標徴である。

178 チャノツノメクラガメ

Helopeltis fasciaticollis Poppius

成蟲 雌 體は黒色、頭は小さく且つ短く複眼は球形にして横に突出す。觸角は細長、體長の2倍に達し第1節は太く頭と前胸背との長さより遥に長い、褐色で基部は淡黄白色、第2節以下は黒褐色で細毛を密生する。前胸背の前方は首状に細く、中央の大部分は橙黄色を呈し後縁には黒色の三角紋を有す。小楯板には後方に彎曲せる長い桿状突起を有し、其の先端は球状に膨大す。腹背の第1節は暗褐色第2，3兩節は淡緑色、末端は黒色を呈す。翅は暗色にして半透明。肢は黄褐色にして腿節には黒色の斑點を散布する。體長7.5mm内外（翅端まで）。

雄 前胸背は全く黒色である點により一見して雌と區別することが出來る。體長6.5mm内外（翅端まで）。

卵 白色にして圓筒狀に近く、下端圓く、上端は少しく扁平で、頂端は楕圓形を呈し、その兩側には1本宛の長さを異にする白色毛を有す。長徑1.5mm。

幼蟲 體は黄褐色、複眼は赤色、其の後方に赤色の1縱線を有す。觸角の第1節は

黄褐色にして赤色の斑紋を少しく有し、第
二節以下は赤褐色を呈す。胸背の桿状突起
は黄褐色又は暗褐色、脚の腿節及脛節には
赤褐色或は暗褐色の斑點を有す。體長2～46
mm。

　經過習性　年4～8回の世代を重ね幼蟲
態にて越年する、普通北部では4月、中部
では3月より産卵する、卵は1回に多數産
下されるのではなく、少數宛を5～42回平
均24回、日數にして15～47日間、平均28日
間に亘つて産卵し、1雌の總産卵數は9～
284粒、平均136粒である。1日の産卵數
は1～5粒であるが中に12～23粒に及ぶも
のもある。雌は羽化後4日目より交尾し直
ちに産卵する。一生涯に數回の交尾を行ひ、
産卵は斃死の前日まで續けられ、壽命は最
長58日、平均30日間であるが越冬したもの
は167日間に及ぶものもある。卵期間は7
～10日、平均8日間、幼蟲期間は11～15日
で平均14日である。卵より成蟲となるまで
の日數は15～25日で、平均20日内外である。
幼蟲は4回の脱皮を行ひ5回の脱皮にて成
蟲となる。成蟲幼蟲共に葉の表面又は裏面
に在つて、嫩葉の組織内に口吻を挿入して

養分を吸收する。その刺痕部は約15分を經過すると暗褐色の斑點となつて現はれる。被害の甚しいときは全嫩葉は褐變萎凋して收穫皆無となることがある。被害は嫩葉の外、幼梢部、蕾及幼小な蒴果にも認められる。産卵は主として幼梢部の組織内に普通1箇所に2～8粒宛産下せられる。卵子の頂端の細毛は幼梢の表面に現れて居る。為めに其の存在を容易に発見することが出来る。成蟲は北部では11月中旬より産卵を中止し越冬に入り、翌春再び産卵を始める。而して越冬中と雖も、全く攝食を中止して休眠するが如きことはない。被害の最盛期は其の年の気象状況にも依るが概して夏茶期である。風當りの少ない場所はその発生が多いやうである。

加害植物 ツバキ科植物:-茶、サカキ、ヒサカキ、タイワンツバキ。トベラ科:-トベラ。ヘンルーダ科:-柑橘類。センダン科:-タイワンセンダン。ユキノシタ科:-ヒヒギヅキナ、ガクウツギ。ノボタン科:-ノボタン。ウコギ科:-フカノキ。スヒカヅラ科:-タカサゴガマズミ。アカネ科:-クチナシ、コーヒーノキ(珈琲樹)、ボチヤウジ、ギ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ヨクシンクワ。キク科:—シロバナイガカラゾリ。ナス科:—イヌホホヅキ。タカトウダイ科:—ヒラミカンコノキ、カキバカンコノキ、アカメカシハ、ナンキンハゼ、トウゴマ。ユリ科:—サルトリイバラ。クマツヅラ科:—タイワンレンゲウ。バンレイシ科:—トゲバンレイシ。バセウ科:—タイワンバセウ(ヤマバセウ)。イラクサ科:—苧麻、ヤナギヤブマヲ。ハンゲシヤウ科:—ドクダミ。ツユクサ科:—ヤンバルメうが。

分布　台湾(固有)。

駆除予防法

1.　成蟲幼蟲及卵を捕殺すること。

2.　発生地にあつては12月及3月上旬に除蟲菊加用石鹸液を撒布して越冬前及産卵前の成蟲を駆除すること。

3、　発生地にあつては茶葉摘採後直ちに前記薬剤を撒布すること。

4.　通風の悪き茶園に好んで発生するを以て充分注意し本蟲を発見したる時は直ちに捕殺並に薬剤撒布を行ふこと。

5.　除蟲菊加用石鹸液は摘採2週間に撒布すること、撒布後の経過日数短きときは製茶に薬臭の懼れあるが故に注意を要す。

179 キナノツノメクラカメ

Helopeltis cinchonae Mann

異名：*Helopeltis brevicornis* Poppius

本種はチャノツノメクラカメに似て居るが、觸角の第1節が頭と前胸との長さよりも遙かに短いことと、小楯板の桿状突起が彎曲してゐないことと、又卵にあつては2本の白毛が同長であることによつて區別することが出来る。

成蟲 雌 體は赤褐色、頭は小さく且つ短く複眼は球形にして横に突出す。觸角は細長にして翅端を僅に越へ第1節は頭と前胸背との長さより遙かに短く且つ太くして稍棍棒状を呈し2箇の結節状隆起部あつて赤色の環状紋と膜質部と接する部分は赤色を呈し、膜質部の先端近くに弦月状の透明部を有す。腹部は赤色、末端の3節は暗褐色を呈す。肢は黄褐色腿節には數箇の結節状隆起と黒色環状紋がある。體長7.5mm内外（翅端まで）。

卵 白色、細長圓筒形に近く、一端は圓く他端は少しく偏平となり其の頂端の兩側より各1本の同長の長き白色毛を出す。長徑1.2mm内外。

幼蟲　黄褐色にして複眼は赤色、其の後方には前胸背に達する赤色線を有す。觸角は暗黄褐色にして體長の1倍半を有し第1節には3箇の赤色紋を有し、末節は少しく膨大し赤色を呈す。中胸背の棒状突起は少しく前方に傾斜し、基末部は赤色、他は淡黄色を呈す。腹背の中央には赤色の1縱線を、第3～5節の中央には不整形の赤色紋を有す。背側には2條の屈折せる赤色の縱線があつて後端に沿て持續す。脚の腿節には4箇の環状の赤色紋を有し、脛節には各2箇の赤色紋と暗色紋とを有す。體長2～5mm。

經過習性　年4～8回の世代を行ひ成蟲にて越年すること及び其他の習性は前種と略同様なり。1雌の總産卵數は最多242粒、最小14粒、平均105粒にして、卵期間は5月に於て11～13日、幼蟲期間は14～22日で、卵より成蟲となるまでの日數は26～34日間である。幼蟲は4回の脱皮を行ひ、5回の脱皮にて成蟲となる。成蟲の壽命は11～42日、平均29日間である。成蟲幼蟲共に葉の表面に静止し、裏面に止まる場合は極めて少ない。休止のときは各腿節を屈く體に接

して上方に擧げ、各脛節は腿節に密接せしめ、觸角は背上の腿節の内側に接して置かる。歩行並に攝食のときは觸角を前方に突出せしめ、肢は四方に開き常態にて食す。

卵は幼梢部葉柄等の組織内に産附し、等長の白色毛を樹皮外に現はして居るからその存在を発見することが容易に出来る。1箇所に3～7粒を産下する。産卵は1回に多数産下するのでなく、10～30日に亘って纏卵粒を産下するものである。

加害植物　ハンゲシヤウ科:－ドクダミ。ノキシノブ科:－ウスエフウラボシ。クルミ科:－フジバミデ。ツバキ科:－茶樹、ヒサカキ、ニイタカヒサカキ、オホシマサザンクワ。アカネ科:－規那樹、ボチヤウジ、クチナシ、珈琲樹、ケアカミヅキ。ブドウ科:－ミツバツル、ノブドウ、ビンボウカヅラ。ウルシ科:－セバ。マメ科:－クズ。マダザキコウカン。マンサク科:－フウ。バラ科:－カラピンイチゴ。クスノキ科:－アボカド。ベンケイサウ科:－セイロンベンケイ。ユキノシタ科:－カラコンテリギ。ノボタン科:－ノボタン。ミソハギ科:－シマサルスベリ。ウコギ科:－タカノツメ、フカノキ、ウラジロ

タラノキ、メナモミ、タサブラウ、ブクリウサイ、カズザキコウゾリナ。ヤブカウジ科:―シナセンリヤウ、イヅセンリヤウ。カキ科:―ヤハラケガキ。エゴノキ科:―タイワンエゴノキ。ムラサキ科:―ナンバンルリサウ。ヒルガホ科:―甘藷。ナス科:―イヌホホヅキ、ニシキハリナスビ。ウマツヅラ科:―ホウライムラサキ。キツネノマゴ科:―ウロヲマリ。シソ科:―タイワンヒメジソ、オホジフニヒトヘ。タデ科:―ツルソバ、ハナタデ、ヒゲタデ。コセウ科:―フウトウカズラ。キントラノヲ科:―ホザキトラノヲ。タカトウダイ科:―カキバカンキソコノキ、ヒラミカンコノキ、ナンキンハゼ、タイワンニシキサウ、ナガバナンハゼ。イラクサ科:―ハマイヌビハ、オホバヒメマヲ、ナガバヒメマヲ、苧麻、オホミヅ、イハガネ、ヤナギヤプマヲ。サボテン科:―ハブカヅラ。アフヒ科:―ブッサウゲ。ツユクサ科:―ヤンバルメウガ。バセウ科:―タイワンバセウ(ヤマバセウ)。

分布　台湾、印度、爪哇。

駆除豫防法

ト前種ニ準ずる。

2. 茶樹以外にあつては除蟲菊加用石鹸液の他デリス剤又は硫酸ニコチン等の薬剤を使用しても良い。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

No.

171　クサゼミ

Mogannia hebes Walker

本種は時々幼甘蔗の葉の中肋に産卵管を以て縦列に穴を穿ち、その中に産卵することがある。又その幼蟲も屢々甘蔗の地下部に多数寄生して汁液を吸收することがある。然しそれらの被害は極めて少いから決して恐るべき害蟲ではない。

No.

グンバイムシ科（軍配蟲科）

Tingitidae

甘蔗の害蟲として次の1種のみ知られているが大害をなさず。

180 ナガグンバイムシ

Serenthia formosae MATSUMURA

TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 農業部農業試驗所 1895

アワフキムシ科（泡吹蟲科）

Cercopidae

甘蔗の害蟲としてのアワフキムシの幼蟲は剝離しかゝった葉鞘の下に寄生し泡沫樣の分泌物で自體を蔽ふて居る。本科に屬する種數で臺灣に產する甘蔗の害蟲はカンシヨアワフキ *Aphrophora* sp., (169) イネホソアワフキ *Poophilus costalis* WALKER であるが何れも大害を與へたことを聞かない。然し「トリニダット」に產する *Tomaspis saccharina* DIST. (Sugar Cane froghopper) は甘蔗の重大害蟲で單に甘蔗の汁液を吸收するばかりでなくブライト病の傳播を媒介することが判明して居る。

170 カンシヨアワフキ

Aphrophora sp.

成蟲 體長（翅端まで）9 mm 内外。體は灰褐色、頭部は三角形で頭頂に2個の單眼を有し、頭部及胸部の前半は暗褐色を呈し上面平たく正中線は隆起して居る。又前翅の縱脈に沿ふて斷續せる暗褐色の不規則な斑紋を有し、腹部の下面は側方及尾端を除いて黒褐色、肢は淡黄褐色めで暗褐色の斑紋を有し、後脛節の外方に2本の棘狀突起が出て居る。其他頭部胸部及前翅の表面に稍々大きな點刻を密布し、灰白色の微毛を有して居ることも一つの特徴である。

幼蟲 泡沫様の分泌物に被はれ全體淡黄色であるが頭部及胸部の背面は特に帶紫暗褐色を呈し、又翅は極めて小さく腹部を露出しその背面に2條の微かな淡紫褐色の縱帶を現して居る。

分布 台灣（屏東、埔里）。

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

浮塵子類

浮塵子類（ウンカ類）は一般に体の小い昆虫で、種々なる植物に寄生し、群集することが少くない。成虫、幼虫共に吻状の口を有し、植物の液を吸収して、大害を加へることがある。卵は産卵器によつて、植物の組織の中に産下され、孵化せる幼虫は5回の脱皮をして成虫となり、蛹の期間はない。一部の種類では、翅の長いものと翅の短いものとの2形が現はれ、翅の長い個体は飛翔することが出来る。又此類は活潑に跳躍する。

浮塵子類は次の如き害を植物に加へる。

(1) 口吻を植物の組織内に挿入して液を吸収し、生育を衰へしめ、或は枯死に至らしめる。

(2) 産卵器を以て植物の組織内に産卵して植物を傷つける。

(3) 液状の糞を排泄して、植物を穢す。

(4) 植物の病原体を伝播する。

種類甚多く、本島に産するもの約300種に達し、稲に加害する種類のみでも20種以上知られて居る。本編にては、その中の主要

なるもののみを説明した。

本島に於て稲に加害する種類は全て、他の種々な禾本科或は莎草科の雑草にも生活し、稲にのみ生活し他の植物には寄生しない種類は見られない。即ち野生の禾本科植物に生活する種類が稲に加害するのである。此の如く、野生植物の昆虫が栽培植物に加害する例は他にも甚多く、従って野生植物に生活する昆虫は応用上軽視することは出来ない。

浮塵子類は卵及幼虫の期間は一般に短く、本島にては周年活動し、1年に多数の世代を重ね、成虫は常に見られる。然し冬期には活動低下し蕃殖少く、その個体数は少い。殊に本島の北部にては冬期は一般に甚少いが、気温の上昇と共に蕃殖し、7月－9月頃には水田に最多く、屢々大発生し大害を見る。殊に気温の高く、雨の甚少い歳には、7月－9月頃大発生を見ることが多い。

浮塵子類は大体次の2群に大別することが出来る。

(1) 触角は複眼下、頭の両側から出て居るもの…………………………ウンカ科

(2) 触角は複眼の前方、左右複眼の間か

　　ら出て居るもの………ヨコバヒ科

　此等2群の中ウンカ科は稲の基部水際近くに寄生し、本島にてはヨコバイよりもその害は大きく、又駆除にも困難である。

　駆除豫防法　全て害虫は大発生を見る以前に駆除するを第一とする。大発生大害を見て、初めて駆除するが如きは、恰も健康を怠り大病になって、初めて治療するに等しい。即ち絶えず水田を見廻り、常に害虫に注意すべきで、不断の努力が必要である。殊に気温高く、雨の少い歳には浮塵子類の大発生を見ることが多いから、此の如き歳は特に注意を要する。

　既に記述したる如く、稲の浮塵子類は他の種々なる野生の禾本科植物等にも寄生し、稲の栽培期間外は此等の植物に生活して居る。従て冬期に畦及水田附近の雑草を屢々刈り取り、或は除去し、或は焼却することは浮塵子を減少せしめる上に効が多い。殊に苗代の発芽前には必ず實行すべきである。又第一期作の收穫時期に於ても之を行ふを可とする。

　浮塵子類は燈火に來集するを以て、誘蛾燈の利用も效果がある。

注油法を行ふこと。油量、10aに對し石油3l。注油は注油器で滴下する（注油器は竹筒又は亜鉛板を圓筒にして造つたもので、上端に把手を造り、下端の底の中央に小穴を穿ち、之に細い棒又は針金を挿して常時は孔を塞ぎ使用のとき、此の棒によつて出油の多少を調節しながら滴下する）。注油の方法は、水田に淺く灌水し、驅除は早朝靜穩の日を良しとす、10株位の株間に滴下しながら歩くと油は自然に擴がる、滴下したる後、長棒で害虫を拂ひ落すか、又は油水を株間にかける、注油後2—3時間の後に灌水しつつ油水を排除する。單用石油よりも、除虫菊浸出石油を滴下した方が、擴散力もあり且つ殺虫力も強い。用量は除虫菊粉80gを石油2lに投入し2晝夜密閉、浸出後濾過したるものを使用する。10aに對し1—2lでよい。

總、農、試、昆蟲係用紙 (19×24)

ヨコバヒ科（浮塵子科）Jassidae.

浮塵子類は體形蟬に似た小形の昆虫で、口器は口吻となりて液體を吸收する樣に変化して居る。單眼は2個あれども時に無い事がある。觸角は3節よりなりて、其の末端節即ち鞭節は多數の環節よりなりて絲狀を呈する。頰は幅廣く、前頭及び頰に愈着して1枚の彎曲せる片板となる。前胸背は後方に延長して居る事がない。翅は2枚ありて、前翅は後翅よりも全面一樣に硬化して居る。後肢の基節は橫形で側方に幅廣となる。脛節は角張り後肢のものには多數の小刺を列する。爪間盤は大形。

同科の昆虫は同翅目中最も多數の種類を包含する類である。雌は植物の組織内に卵子を産下する。其の卵子は普通は細長く莖内や葉鞘内や葉肉内に縱列に産下せらるる。之より孵化せる幼虫は第2回の脫皮後に翅芽を生じ、第5回の脫皮後成虫となる。幼虫時代の食物の種類は其の初期には普通一定の限度があるが、後期には各種の種類を食物とすることが普通である。成虫は幼虫よりも多數の植物に食を求むる事が多い。

種類によりてはバイラス病の傳播を爲すものがある。臺灣には150種内外のものが知られて居る。

No.

168　フタテンコミドリヨコバヒ

Chlorita biguttula Ishida

本種の學名は*C. biguttula* SHIRAKIとして取扱はれて来たが石田昌人氏殖産局出版、棉の害益蟲報告第1～3頁第三版第5～7圖の発表が早かりしを以てこゝにはオーサー名をISHIDAとして取り扱ふ。

成蟲　體は淡緑色、頭は淡黄色にて前端近くに2個の黒色小點をなし其附近は橙黄色を帯ぶ。複眼は灰褐色、顔は黄色にて中央は淡色。前胸背は淡黄色にて2條の黄色線を有し、小楯板も同色にて同樣の條線がある。前翅は半透明にて淡緑色を帯ぶ。光線の具合により紫藍色を現す。翅端近くに1個の黒紋があり、前縁部の中央に長い白色紋を有す。體の下面は淡黄色、脚は淡青緑色を呈す。體長3mm内外。

卵　無色透明、長楕圓形にて稍側扁す。長さ0.3mm。

幼蟲　孵化當時は淡色にて殆ど透明、脚は體に比し頗る長いが、成長すると緑色を呈し稍半透明となり、脚は成蟲に近い形態となる。頭に存する2黒點は判明しない。

經過習性　嘉義にては年8～14回の世代

の長さは夏季に於て2週間内外、冬季に於て30～43日間である。卵期間は夏に於て1週間内外、冬に於て2～3週間、幼蟲期間は夏季に於て1週間内外冬季に於て2～3週間である。

成蟲は羽化後5～10日にして交尾し、交尾後2～5日にして産卵する。卵は莖葉柄及葉脈等の組織内に稍斜に1卵宛産下せらる。

成蟲の壽命は20～28日間である。

成蟲幼蟲共に葉裏にあって口吻を組織内に挿入し養分を吸收して加害する。被害の初期は葉の表面に白點を生じ、續いて葉裏の発育不充分となり葉は漸次裏面に卷縮する、從て被害葉は次第に外縁より褐色に變じ遂に枯死して落下する。本種加害の多少は棉の発育、收量に著しい影響を及ぼすもので、棉作上特に注意を要する大害蟲である。

加害植物　棉、茄子、トウアフヒモドキ、木芙蓉、佛桑花、甘藷、ローゼル等なかど特に棉、茄子、ローゼルを好む。

分布　台湾。

駆除預防法

1.　棉の品種により被害の多寡がある、

1895

No.

故に栽培上其の點に注意することが肝要である。概して陸地綿、埃及棉は本種に對する抵抗性弱く、東洋棉及印度棉は強きが如し。

2. デリス乳剤又は除蟲菊加用石鹸液を数回撒布すること。

No.

167 ミドリヒメヨコバヒ

Chlorita formosana Paoli

Chlorita flavescens FABRICIUS (Part).

(ウスバヒメヨコバヒ、茶の浮塵子)

成蟲　纖弱であつて淡緑色、頭、顔又前胸背は淡黄緑色、複眼は灰色又は淡黄褐色を呈す。中胸背は黄褐色にて中央に灰白色の縦帶、後縁に灰白色の横帶を有す（乾燥標本にては消失する）。前翅は僅に黄色を帶び、前縁の中央に長楕圓形の灰白色紋がある（此紋は乾燥標本にあつては消失する）、半透明にして緑色の體軀を透視することが出來る。體長3mm内外（翅端まで）。

卵　白色又は淡緑色にて圓筒形、一側に彎曲する。長徑1mm内外。

幼蟲　淡黄緑色、孵化當時は1mm内外にて透明。複眼は赤色を呈す。成長すると體色稍々濃色となる。體長2.5mm内外。

經過習性　年に約10世代を累ね、茶樹にあつては成蟲にて越年し、蓖麻、桃等にあつては年中各時代のものが見られる。而して茶樹にあつては成蟲にて越年することは其加害する嫩葉なき爲めである如く思はれる。越年成蟲は茶樹の葉裏にあつて養分を

吸收しつゝ越年するものであつて、休眠はしない。3月頃になり茶の芽が出ると越年成蟲は嫩葉に移り、養分を吸收しつゝ幼梢部及葉柄、葉脈等の組織内に1卵宛産下する。卵は約7日間にて孵化し、幼蟲は嫩葉の裏及幼梢にあつて成長し約7日間にて成蟲となる。卵より成蟲となるまでの日数は14日内外であるが、又20日或は28日を要する場合もある。被害の最高潮期は5〜6月間即ち春茶の終りより夏茶の初期である。加害された茶葉及幼梢は著しく萎縮し收穫は大いに減ずる、即ち此期間の收量の増減は全く本種発生の多少に左右せらるゝ處實に大なるものである。

　本種の被害は茶の生産上實に大なる減收を来すのであるが、一面に於ては其被害茶葉を以て製したる茶は獨特の香氣を有するの故を以て高級茶として歡迎せられ普通の茶より1〜2割方高價に取引される。本種のことを福建語にて趙煙仔(テヨエンナー)、廣東語にて趙煙(チヨエン)仔と稱し被害茶葉にて製茶されたるものに浮塵子臭(ウンカシユウ)がある、此の嗅ひのことを福建語で煙仔味(エナービ)と云ひ、其茶を凸風茶(ポンホンテー)と稱す。然し凸風茶とは高級茶と云ふ意味でばずし

も本種被害茶に限られたものではない。印度及錫蘭にても此類の被害葉にて製したる茶は優良であると報ぜられて居る。

加害植物　茶樹、蓖麻、桃、苧麻、菜豆。

分布　台湾、内地。

駆除豫防法

1. 幼蟲及成蟲を捕殺すること。

2、除蟲菊加用石鹸液を摘茶2週間前に撒布すること。

ツマグロオホヨコバヒ

Cicadella ferruginea Fabricius.

オホツマグロヨコバヒ

Tettigonia ferruginea Fabr. var. apicalis Walker.

成虫　頭は淡黄色。胸部及び前翅は黄緑色。前翅の先端は黒色。翅端近くの内縁は灰白色。口吻、顔の2點、額の1點、頭頂の1點、2個の單眼、觸角の基部、複眼、前胸背の3點、楯状部の1點、前翅の基部、後翅及び腹部の背面等は黒色。各肢の腿節は黄緑色。脛節及び跗節は白色。基節、腿節及び脛節の各基部及び末端、跗節の末端及び爪等は黒色。體の下部は黒色。腹部各節の後縁は黄緑色。體長(翅端まで)13mm内外。乾燥標本とすれば橙黄色に変ずるのが普通である。

經過習性　年幾回の世代を經るか不明であるが、1月頃より柑橘園に成虫現はれ、新葉より養分を吸收するも其の害は大でない。多少集合性があつて葉裏に多く、非常に敏活で横走するか又は飛び去る性質に富む。

加害植物　柑橘、桑、月桃、茶。

分布　臺灣。日本の本土、支那、馬來半

島及群島、印度。

駆除豫防法　捕虫網で成虫を捕殺する。

シロオホヨコバヒ

Cicadella spectra Distant

成虫　乳白色で、白粉で被はれて居る様に見へる。頭、前胸及翅脈は淡黄褐色を帯ぶ。頭の前端に一黒點があり、複眼の中間の中央に赤褐色乃至黒色の一小斑がある。複眼の間に在る單眼の周圍も赤褐色乃至黒色を帯びて居るので、複眼の間には3斑點が横列されて居る。複眼は暗褐色、体の下面及肢は淡黄褐色を呈する。体長約7.5―10mm。

經過習性　稻その他禾本科雑草の葉に寄生し、周年成虫が普通に見られる。然し個体數は少く、大害を見ない。本種は大形で乳白色のために容易に發見される。

加害植物　稻、禾本科雜草。

分布　台湾、膨湖島。琉球。

ムツテンヨコバヒ

Cicadula sexnotata Fallen.

成虫　黄緑色。頭は黄色で複眼の間に1対の黒色の横帯を有し、その後方に1対の圓形黒色の斑紋がある。頭を上より見る時は前縁は中央を除いて黒色である。頭の後端部には1本の細い黒色の縦線がある。頭の下面には複眼の間に約5対の黒褐色の横帯がある。複眼は黒色である。前胸背の中央には顕著ならざる淡黒色の部分がある。小楯板の基部に1対の黒色の小斑紋があり、又中央に1横線を有する。前翅は黄緑色半透明である。肢は黄褐色に近い。体長約3mm。

経過習性　稲その他種々な禾本科植物に寄生し、多数発生することがあるが大害を見ない。

加害植物　稲、禾本科雑草。

分布　台湾。日本本土、支那、亜米利加、欧洲等。

イナズマヨコバヒ

Deltocephalus dorsalis Motschulsky

成虫　翅は淡黄白色で暗褐色の著明な電光形の斑紋がある。頭は淡黄褐色で、不判明な黄褐色の斑紋を有し、又背面後部の中央には細い黄褐色の1縦線がある。複眼は暗褐色。單眼は黄色で、複眼の直前に位置し、上よりは見へない。前胸背は黄白色で、判明せざる黄褐色の斑紋がある。体の下面及肢は殆んど黄色である。体長約3.5mm.。

經過習性　稲及禾本科雑草に寄生する。日本の本土に於ては稲の主要な浮塵子の一であるが、本島に於ては一般に個体數少く大害を見ない。

加害植物　稲、禾本科雑草。

分布　台湾。日本本土、印度、セイロン、ボルネオ。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

キイロヒメヨコバヒ

Empoasca subrüta Melichar.

成虫　小さな種類で、体は美しい橙黄色を呈する。翅は白色、半透明で、少しく光澤がある。頭は長さは狹いが、幅廣く、斑紋を有しないが、中央に著明ならざる褐色の1縱線がある。複眼は黒色。單眼は乳白色を呈し、少しく曲り、頭の前縁、複眼より少しく内方に存し、背面よりはその一部が見へるに過ぎない。前胸背の中央には、1對の殆んど三角形に縁取られた部分がある。肢は淡黄色を呈する。体長約3.3mm。

經過習性　本島に極めて多く、周年成虫が見られ、苗代に最も早く現はれる浮塵子は本種である。成虫及び幼虫共に稻の葉に寄生し、その加害の跡は黄白色の小斑點となるが、稻の根元に寄生することなく、大害を見ない。稻の栽培期間外は畦及水田附近のアシガキの他の禾本科植物に生活し、本島北部の冬季には、殊に溝の中、或はその他の窪んだ場所の禾本科植物に多數生活して居る。

1年に多數の世代を重ね、幼虫期間は夏季18日内外、雄成虫の壽命は1箇月餘りに

No

も達し、雌成虫にては3箇月以上に達することがある。卵は葉の主脈に沿ふて組織内に1列に産下され、産卵の跡は褐色を呈するに至る。

加害植物　稲　禾本科植物。室内飼育にては菊科植物の一部をも食害する。

分布　台湾。日本本土、印度、セイロン、ジャバ、等東洋に広く分布す。

1895

ヒトツメヒメヨコバヒ

Erythroneūra maculifrons Matsumūra

成虫　微小なる種で、体は淡黄緑色を呈し、翅は淡緑色で半透明、少しく白色を帯びて居る。頭は長さ甚だ狭く。前縁は圓く、前端の中央には大なる黒色の1斑紋がある。その斑紋は上より見る時は頭の長さの半以上を占め、その前端の中央は凹入して居る。頭の後縁とその斑紋との間には判明せざる褐色の1縦線が存する。複眼は大きく、殆んど黒褐色を呈する。前胸の前縁は圓く、背面中央部は少しく暗色を帯びて居る。肢は淡黄褐色を呈し、腹部は殆んど黒い。体長約2.5mm.

経過習性　種々な禾本科植物に普通で、稲にも生活するが、大害を見ない。

加害植物　稲、甘蔗、禾本科雑草。

分布　台湾。日本本土、印度、セイロン、ジヤバ。

マンゴーツキンヨコバヒ

Idiscerus niveosparsus Lethierry.

成虫　體は暗黄褐色、頭は大きく頭巾狀を呈し、額より頭頂にかけて大きな1個の暗褐色の紋がある。複眼は黒い。稜狀部の基部の兩側には三角形の黒紋がある。或る個體では更に基部の中央に黒色の短縦線を有するものがある。稜狀部の後端は灰白色を呈す。翅は透明で暗黄褐色なれど脈は濃色、前縁の中央及び翅端近くには濃色の紋がある。後翅の脈及び體の腹背は黒褐色。後肢の脛節の末端は暗褐。體長5mm内外(翅端まで)。

經過習性　年10數回の世代を累ぬる樣で、年中各時代のものが發見される。幼虫、成虫共に葉面又は幼梢より養分を吸收する。花梗が犯された場合は落花又は落果することがある。卵は葉、幼梢、花梗等の組織内に産下される。幼虫成虫共に極めて活潑である。

加害植物　檬果樹。

分布　臺灣、支那、シンガポール、印度。

驅除豫防法　(1)除虫菊劑、ニコチン劑、魚藤劑等を撒布すること。

(2)卵は組織内に産下されて居る故 孵化したる幼虫を駆除する爲め1箇月3回位薬剤を撒布する。

ツマグロヨコバヒ

Nephotettix apicalis Fabricius.

成虫　体は緑色を呈する中形の、甚だ普通の種類で、体の斑紋の変化が甚だ多い。頭の上面は黄緑色或は黄色を呈し、光澤あり。その中央よりも前方に黒色の1横帯が両複眼の間に存し、その後方には頭の後端に達する甚だ細い黒色の1縦線がある。頭の前縁及下面は雄にては普通黒色で、光澤があるが、雌にては淡褐色である。複眼は大きく、黒褐色を呈する。單眼は黄色、前方を向き、複眼の少しく前方、頭の前縁部に存する。前胸背は黄緑色で、前縁の黒色を呈するものがあり、又その中央部及び後半は濃緑色で、後縁に沿ふて、黒色の部分の存するものもある。前翅は緑色、その先端部は雌にては普通淡褐色を呈するも、雄にては黒色である。又普通雄にては前翅の中央部に、大なる楔状の黒色の1斑紋の存するものが少くない。肢は淡褐色乃至は黒褐色を呈する。体長4.5mm内外。

經過習性　甚だ普通で、種々な禾本科植物に寄生し、稻に大蕃殖をなすことがあり、稻の著明な害虫として知られて居る。本島

にてトビイロウンカ　セジロウンカに比しその害は少い。成虫は周歳見られ、多數の世代を重ねる。冬季は畦畔及水田の附近のアシガキ、その他禾本科雑草に生活して居る。卵は葉鞘の組織内に列べて産下される。稲葉の被害部は白色の斑點となる。本種は稲の萎縮病の病原を傳播するものとして知られ、その害は直接その稲の汁液を吸收するにとゞまらない。

加害植物　稲、禾本科雑草。

分布　台湾。日本本土、印度、セイロン、比律賓。

ホソサジヨコバヒ

Nirvana pallida Melichar.

成虫 体は扁平で、略々淡黄色である。頭は大きく扁平で前方に突出し、長さは幅よりも遙に大きく、鴨の嘴状を呈し、淡黄褐色で複眼の前方両側に沿ふて橙黄色の部分があり、背面の中央には淡黄色の1縦線を有する。複眼は暗黄色である。單眼は赤黄色で、複眼の直前に位して居る。前翅は淡黄色、半透明で、先端の近くに圓形の黄褐色の1小斑點があり、又前翅の先端の近き部分より褐色の2横線が出て居る。肢は淡黄色を呈する。体長約4.7mm。

經過習性 種々な禾本科植物に寄生し、稻にも加害することがあるが、甚しく少く、明なる害を加へない。

加害植物 稻、甘蔗、その他禾本科植物。

分布 台湾、琉球、日本本土、支那、印度、セイロン等。

ナカグロホソサジヨコバヒ

Nirvana suturalis Melichar.

成虫　体は扁平で、淡黄白色を呈し、体背の中央には、頭の先端より翅端に至るまで、暗褐色の太い1縦紋が走つて居る。此縦紋は所々に明な括れを有する。頭は大きく、前方に突出して先端尖り、長さは幅よりも遥に大きく、扁平である。頭の背面の中央は凹入し、周邊は隆起し、匙状を呈する。複眼の中央部は黒い。前翅は淡黄白色で、半透明、先端に近く暗褐色の1小斑點があり、前縁の末端に近き部分よりは、著明ならざる1―2の黄褐色の横線が出て居る。肢は淡黄色である。体長約5.0mm.

經過習性　種々な禾本科植物に寄生し、稲には甚だ少く、明なる害を加へない。

加害植物　稲、甘蔗、禾本科雑草、等。

分布　台湾。セイロン、ビルマ。

國立臺灣大學 農業試驗所 1895

No.

165　クロヒラタヨコバヒ

Penthimia nitida Lethierry

成蟲　體は稍倒卵形、漆黑色で光澤があつて額に數條の横皺がある、翅端には小顆粒を密布しそれより黄褐色の短毛を出す。前翅の末端は黄褐色で半透明、腹面は黑色。體長10mm内外（翅端まで）。

經過習性　茶葉の表面に密着して養分を吸收するが其の害は輕微である。僅かの動搖にても直ちに跳躍して逃去する。

加害植物　茶樹。

分布　台灣、本州、九州、ミグリナ。

No.

166 チヤノヒラタヨコバヒ

Penthimia theae Matsumura

(チヤノマルヨコバヒ)

成蟲　體は稍倒卵形、頭及胸背は黄褐色で灰白色の斑點を散布す。前翅は灰白色で半透明、翅脈は黄褐色并に黒褐色の斑點を基部及中央に密布する。顔、體下及肢は黒色、前肢腿節の末端、前肢の脛節及跗節、中肢の跗節、後肢の脛節の刺毛、後肢第1跗節及第2節以下の末端は黄褐色を呈する。體長6mm内外(翅端まで)。

幼蟲　成蟲と略同色である。

經過習性　成蟲幼蟲共に茶葉の表面に密着して養分を吸收するが其の害は輕微である。成蟲幼蟲共に僅かの動搖にても跳躍して逃去する。

分布　台湾。

ランカ科（浮塵子科）

Delphacidae

後肢脛節に可動的の大きな鋸歯状の刺が有る事によって、他のランカ類と直ちに区別することが出来る。甘蔗の害虫として次の3種がある。

トビイロウンカ

Nilaparvata oryzae Matsumura.

成虫 暗褐色で、頭部は複眼の間に於て少しく前方に突出し、背面の後縁の近くには凹みがある。複眼は黒褐色を呈する。前胸背及小楯板(楯状部)は暗褐色を呈し、各3本の著明ならざる縦隆起を有する。小楯板は前胸背よりは長く、その後端は少しく尖つて後方に突出する。前翅は褐色を帯び、半透明で、後縁の殆んど中央部には黒褐色を呈する1小部分がある。肢は黄褐色を呈する。体長約4.5mm。

本種の翅は普通腹部末端よりも後方に達するが、雌には翅の甚だ短いものが現はれることが少くない。この短翅形に於ては、前翅は短して太く、腹端には遙に達しない。

經過習性 稲その他の禾本科雑草に寄生し、稲に大蕃殖をなし大害をなすことがある。成虫及幼虫共に茎の根元、水際近くの部分に寄生し、稲は黄色又は灰白色を呈して終に枯死するに至ることがある。殊に第二期作に於てその害は甚だしい。

一年に10世代を重ね、1世代の長さは夏季に於て18日、冬季にては65日で、成虫は

周年見られるが、冬及び春には少い。本種はセジロウンカと共に、本島に於て、最も有害なウンカであつて、従来屡々8—9月頃大発生をして大害を與へた例がある。大発生は夏期高温にして雨の少い時に起るを普通とする。従つて此の如き気候の場合は一層注意を要する。

本種の雌には短翅形を生ずることが少くない。短翅形は飛行することは出来ないが、その産卵力は長翅形よりも大い。

加害植物　稲、その他禾本科雑草。

分布　台湾。日本本土。朝鮮。

シマウンカ *Nisia atrovenosa* Lethierry.

成虫 体は淡褐色である。頭は淡黄褐色を呈し、複眼の間に於て前方に少しく突出し、その突出部の先端中央は凹み、その両側及頭の後縁は隆起して居る。複眼は黒色である。前胸背は短く、淡黄褐色を呈し、中央には1本の縦隆起線がある。前翅は幅廣く、灰白色を呈し、不透明。翅脈は太く、暗褐色で、甚だ顕著である。腹部背面は白粉を有することが多く、肢は黄褐色である。体長約4mm。

経過習性 本島の北部には少いが、南部には普通で、多数発生することがある。種々な禾本科及莎草科植物に寄生し、稲にも生活することが多い。

加害植物 稲、禾本科及莎草科雜草。

分布 台湾。日本本土。支那、印度、亜弗利加。濠洲等。

140　クロスジノウンカ

Perkinsiella saccharicida Kirkaldy

成蟲　體は暗黄色。顔は大部分黄色であるが上方は褐色、額片は黄色、觸角は暗黄色である。胸背及小楯板の両側に暗色の縦線を装ふ。前翅は長く體長の約2倍の長さを有し透明で翅脈上に黒色の顆粒を散在し、外縁の中央から中室に達する黒縦條がある。肢は大体黄色、跗節は黒色、前肢の脛節に黒輪を有って居る。體長4.5mm内外。

經過習性　本種は濠洲の原産で1897年頃布哇に輸入せられ1902年以後布哇の甘蔗の重大害蟲となったが、其後数種の有力な天敵の輸入によって、漸次被害を減じ今日では最早重大害蟲ではなくなってゐる。台湾に於ては何年頃輸入されたものであるか不明であるが、恐らく布哇から蔗苗と共に輸入せられたものであらう。本種の大害は台湾に於ては未だ聞かないが、稀に硝子室内栽培の甘蔗に発生することがある。これは甘蔗の茎葉から汁液を吸収するばかりでなく肛門から排泄する蜜液は葉上に附着して煤病を起し、或は中肋に穴を穿って産卵するため其の場所が損傷を受け紅色を呈するもの

である。

加害植物　甘蔗、玉蜀黍。

分布　台湾、濠洲、ニューギニヤ、布哇、爪哇。

天敵　台湾には本種の卵に寄生する有力な天敵ウンカノタマゴヤドリバチ *Ootetrastichus formosanus* TIMB. が居る。これは1916年MUIR氏によつて発見され布哇へ輸入されたものである。

本種に似た種類に(141)ウミウンカ *Perkinsiella sinensis* KIRKALDY 又(142)サトウノウミウンカ *Perkinsiella vastatrix* BREDDIN が居る。前者は體長稍々短かく3.5〜4.0mmで翅の顆粒は太形であるが、後者は額が暗褐色で上下に微小な白點を有し、翅端部の中央に暗褐色の縱帶がなく只翅脈に沿ふて暗色斑を形成して居るだけである。

駆除豫防法　本要覧第二編41頁参照。

セジロウンカ

Sogota furcifera Horvath

成虫　頭は黄褐色乃至暗褐色で、複眼の中間部は前方に少しく突出し、その突出部の前端中央は少しく突出す。複眼は黒色である。前胸背の大部分は黒色である。小楯板(稜状部)は大きく、前胸背よりも遥かに長く、後端は少しく尖りて突出し、中央は淡黄白色を呈するも、他は殆んど黒褐色である。前翅は淡褐色、半透明で、後縁の殆んど中央には黒褐色の稍々半圓形の1小斑紋があり、左右の前翅を背上に合する時は左右の斑紋は合して1小圓紋をなす。肢は淡黄褐色である。体長約4.5mm。

経過習性　稲及その他の禾本科雑草に寄生し、稲に大蕃殖をなし大害を及ぼすことが少くない。殊に第二期作に於てその害が多い。稲の水際近くに寄生して、養液を吸收す。被害株の葉は赤褐色を呈し、その被害の大なる時は稲を倒伏せしめ收穫皆無となることがある。卵は葉鞘の組織中に縦に列べて産付せらる。

1年に多數の世代を重ね、成虫は周年見られる。甚だ普通の種類で、トビイロウン

No.

カと共に本島に於て稲作に最も有害なウンカである。

加害植物　稲、禾本科植物。

分布　台湾。日本本土、朝鮮、印度支那、セイロン、亜弗利加、欧州等。

農業試驗所 1895 AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE